



高温障害に注意！！



管内の播種作業は昨年と比べわずかに遅い進捗状況となっています。播種後の温度管理については、播種後から被覆資材を除去するまでの期間が重要となります。JA管内でも高温障害が毎年散見されております。被覆資材内の温度が上がりすぎると障害を受け、出芽不良や不揃いの原因となってしまいます。特に新しいビニールを使う場合は、熱を通しやすくハウス内の温度が急激に上昇する場合がありますので注意が必要です。田植え予定1週間前からは、昼夜ハウスを開放して外気に慣らしておきましょう。

◆ 今後の育苗管理について

◎かん水は、朝または午前中に行ってください。夕方のかん水は床土の温度を下げてください。また夜間は蒸散が少ないため、根が酸欠状態となってしまいますので注意が必要です。また、水のやり過ぎは根ぐみを悪くする原因にもなりますので注意してください。

◎苗質をよくするために1.5葉期を過ぎたらかん水後の露払いをお願いします。(塩ビのパイプやイボ竹等)

<温度管理について>

区分	稚 苗 	中 苗 
緑化期	<ul style="list-style-type: none"> ・日中…20～25℃ ・夜間…10～12℃ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中…25℃以下 ・夜間…5℃以上
2.5葉期まで	<ul style="list-style-type: none"> ・日中 … 15～20℃ ・夜間 … 5℃以上 ・田植7日前は昼夜換気 	<ul style="list-style-type: none"> ・日中 … 15～20℃ ・夜間 … 5℃以上
3.5葉期まで		<ul style="list-style-type: none"> ・特に寒くないかぎり昼夜換気

◎追肥の目安および量について(ロング入り肥料使用の方については、基本的には追肥は必要ありません)

○追肥は稚苗で1.5葉期、中苗で2葉期と3葉期の2回を目安とします。

・液肥2号を使用の場合(5ℓで6kg入り)

液肥2号については、1箱あたり水500ccに液肥10ccを希釈して施用します。施用後の水洗いの必要はありません。1本(5L)で600枚分

・硫安を使用の場合

硫安については、1箱あたり水500ccに硫安5gを溶かし施用します。葉焼けをおこさせないため、施用後の散水による水洗いを必ず行って下さい。

春作業が始まって機械等での作業が多くなってきます。作業事故のないよう十分に注意して作業を行ってください。

◆緊急営農情報メールについて

JAから緊急性の高い情報がある場合の緊急営農情報又は水稻に関する情報を発信しております。情報を受信するには登録が必要ですので、右記のQRコードを読み込むか、JAのホームページより専用ページへアクセスしていただき、登録して下さい。

